

教養科目		社会科学部・看護学部・アニメーション学部・人間科学部					2025年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)																
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。													
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。													
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。													
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。													
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。													
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。													
信じられる能力を	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。													
◎:科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)																
授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7			
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	○	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎			
	◆ SDGs概論	1	1	春	○	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎				
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	○	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎				
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	○	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎			
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	○	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎			
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	○	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎			
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	○	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎			
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春		「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
数 理 ・ 情 報 活 用 科 目	◆ 情報活用	2	1	春	○	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期 の間で、大学生に必要なとされる基本的なコンピュータスキルを身につけ ることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこ なえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基 礎知識を習得する。	○	◎	△						
	数理・データサイエンス・ AI基礎	2	1	秋		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生 活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。 基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュ ラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI利活用)」「基礎 (データリテラシー)」「心得(データ・AI利活用における留意事項)」で構 成される。	○	◎	△			○			
	数理・データサイエンス・ AI応用	2	2	春		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生 活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。 応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュ ラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で 構成される。 数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○			
言 語 教 育 科 目	外 国 語	◆ 英語基礎Ⅰ	2	1	春	○	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュ ニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅰ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文 法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ 英語基礎Ⅱ	2	1	秋	○	「英語基礎Ⅰ」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語 を復習し、英語によるコミュにケーションが図れるようになることを目指 す。 「アクティブ英語Ⅱ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文 法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ アクティブ英語Ⅰ	2	1	春	○	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコ ミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話 そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り 扱った会話については、「英語基礎Ⅰ」において、文法や単語、用法を 詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		アクティブ英語Ⅱ	2	1	秋		「アクティブ英語Ⅰ」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心と した授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの 意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力 の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅱ」に おいて、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		レベルアップ英語Ⅰ	2	2	春		海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生など を対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科 目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		レベルアップ英語Ⅱ	2	2	秋		「レベルアップ英語Ⅰ」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来 社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、 留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、 実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		中国語と中国文化Ⅰ	2	1	春		中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学 び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とす る。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を 学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	中国語と中国文化Ⅱ	2	1	秋		「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく 使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技 能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴 史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する 理解を深める。	◎		◎		◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
言語教育科目	外国語	フランス語とフランス文化Ⅰ	2	1	春		フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2	1	秋		「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	2	1	春		ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	2	1	秋		「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	日本語（留学生専用科目）	◇ 日本語ⅠA(文法)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(読解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(聴解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(文法)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(読解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(聴解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
* 日本語ⅡA(文法)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎						

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	日本語（留学生専用科目）	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
基礎教育科目	社会の理解	日本国憲法	2	1	春 または 秋		日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○			
		経済学	2	1	春 または 秋		私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。 経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎				
		社会学	2	1	春 または 秋		社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△		
	人間形成	哲学	2	1	春 または 秋		哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△			
		心理学	2	1	春 または 秋		心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△
		多様性の理解	2	1	春 または 秋		異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
基礎教育科目	人間形成	文章力の基礎	2	1	春 または 秋		大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○				
		美術の見方	2	1	春 または 秋		自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○				
		生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋		少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○				
		生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋		様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたリスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎				
	自然科学	数的理解	2	1	春 または 秋		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△		
		化学	2	1	春 または 秋		基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎					
		生物学	2	1	春 または 秋		生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△			
		環境科学	2	1	春 または 秋		現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△		

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学科名	人間科学科	専攻名	理学療法学専攻	2025年度 カリキュラムマップ
-----	-------	-----	---------	------------------

理学療法学専攻のDP(ディプロマ・ポリシー)

本学科の課程を修め、学則に定める卒業に必要な単位を修得し、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	理学療法士として必要な豊かな教養を身につけている。また、人間科学、基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する専門知識・技能を身につけている。
	DP2	情報の活用	理学療法による課題解決に向けた最新最善な研究成果を情報収集し、その質を吟味した上で、多様化する地域社会の課題に活用する力を身につけている。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	人間科学、基礎医学、臨床医学、理学療法学を主体的に学び続け、科学的で論理的な思考能力を駆使し、専門的職業人としての使命感をもち、地域社会の課題解決に向けて自己研鑽する力を身につけている。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	理学療法士として必要な様々な生活機能の人々への共感的態度の下、自分の考えをまとめる力、豊かにプレゼンテーションを行う力、他職種と協働する力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	理学療法の国際動向および多様性を増す地域動向を理解した上で、人間の心理的・身体的・社会的側面の総合的理解のもとで理学療法学を活かし、人々と地域生活環境の関係性のなかで、課題解決する力を身につけている。
	DP6	課題解決力	地域社会で暮らす人々の課題を分析する力と、理学療法の専門知識・技能を活かして生活機能を最適化する創造力を身につけている。
信じられる能力を	DP7	自己効力感	人間科学という幅広い視点をもつ理学療法士としての可能性を信じ、地域社会で暮らす人々に貢献できる自信を身につけている。
	DP8	人間科学に基づく理学療法実践力	理学療法士として、人間科学を基盤に人間の心理的・身体的・社会的な側面を深く理解し、理学療法学の専門的な知識と技術を身につけ、地域社会における課題に対応しながら、人間の健康と幸福に資するために、生活行為に困難のある方々が抱える問題を発見・解決できる高度な理学療法の実践能力を修得している。

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目 (100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPIに関わる科目 (70%) △: 科目の到達目標が該当のDPIに少し関わる科目 (30%)

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
学科共通科目	◆ 人間科学概論Ⅰ	2	1	春	○	本講義では、学際領域としての人間科学の特徴を活かし、人間存在を多角的に理解できるように教授する。人間存在は「心理」「身体」「社会」といった重層的な側面をもつため、複合的な視点でとらえることが欠かせない。本講義は、多種多様な人間の捉え方を示し、人間理解に不可欠な基礎知識を学際的に学ぶ。	◎	○	◎	△	○	◎	○	◎
	◆ 人間科学概論Ⅱ	2	1	秋	○	本講義では、人間科学を構成する心理学、理学療法学、作業療法学の観点から、人間が抱える諸問題を発見し、解決するための応用的な知識と技術を教授する。人間存在は重層的な特徴をもつため、その問題解決には様々な観点からのアプローチが不可欠である。本講義では、現代社会において人間が体験する問題に焦点化し、その解決策について学ぶ。	◎	○	◎	△	○	◎	○	◎
	臨床薬理学	2	2	春		医薬品の薬理作用についての知識は医療に携わる者にとっては、必須なものである。従って、薬物の最新の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について教授する。さらに、「薬物に対する生体の反応」についての基礎的知識を身につけさせる。薬の作用と有害作用(副作用)、循環器系に作用する薬、抗生剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、消化性潰瘍治療薬の作用機序と臨床応用、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬、糖尿病治療薬等の長期間投与薬物の作用機序、有害作用、臨床応用について学ぶ。この科目は、医療現場において実務経験のある薬剤師である教員が、その経験を活かし、実践に役立つ授業を実施する。	◎	○	△		○	△		
	◇ 公衆衛生学	1	2	秋	○	公衆衛生活動では、疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術があり、それらを学ぶ。この科目では、公衆衛生の総論的なもの、基礎的考え方を中心として専攻に関連の深い内容も加えて学習する。	◎	○	○	△	○	△		
	臨床栄養学	2	2	春		基礎栄養学として、活動のエネルギーとなる栄養素と、体の恒常性を保つための栄養素について学び、日常の食事との関連について講義する。また、身体運動と栄養の関係について講義する。さらに、スポーツ活動や健康づくりに関連する、栄養素やビタミン、ミネラル、水分摂取などについて講義する。	◎	○	△		○	△		
	◇ 一般臨床医学	1	3	秋	○	臨床分野で日常多く見られる各種疾患の初期診療に必要な要点を理解できるようにする。そのほか、救急救命医学、臨床薬理、臨床栄養学、近年注目されている最先端医学について講義する。	◎	○	△		○	△		
	◇ 臨床神経学	2	2	秋	○	神経系に関係する血管障害、変性疾患、外傷、腫瘍、感染症、中毒、機能性疾患について講義する。	◎	○	△		○	△		
	◇ 小児科学	1	2	秋	○	小児各期における成長と発達段階、各時期に特有な疾患について学ぶ。循環器疾患では、先天性ならびに秋天性心疾患、特に川崎病、心筋症、不整脈の病態について学ぶ。消化器疾患では、先天奇形、食道・胃・小腸・大腸・直腸疾患、肝臓疾患について学ぶ。血液・造血疾患では主に貧血、白血病について学ぶ。腎臓・泌尿器疾患では、急性子宮体腎炎とネフローゼ症候群について学ぶ。神経疾患では、炎症性疾患、免疫性疾患、血管性疾患などを学ぶ。発達障害と社会生活の支援や難病についても学ぶ。	◎	○	△		○	△		
	精神医学	1	3	春		精神医学の総説的事項や個々の精神疾患の概念、成因、症状、検査、治療などを学ぶ。また精神障害者への接し方やリハビリテーションの方法についても概要を学ぶ。	◎	○	△	△	○	△		
	救急救命医学	1	3	秋		この講義の春半は応急処置の基本的手技を身につけることを目標として行う。秋半は感染症の基礎を学び、医療の現場における滅菌・消毒の知識の実際を習得し、臨床の現場に役立つ力を身につける。	◎	○	△		○	△		
	◇ 画像診断学	1	3	春	○	レントゲン、CT、MRI、エコーなどの医用画像を評価することは、医療においてきわめて重要で欠かすことのできないものであり、身体所見を取るうえでも念頭に置くべき基本となる情報である。古典的なレントゲン読影の基礎から最先端の検査法まで教授するとともに実際にレントゲンフィルムを手にして読影を行う。	◎	△	○					
	◇ 地域レクリエーション演習	1	1	春	○	本講義では「地域社会のニーズにマッチしたレクリエーション支援者としての基本的資質を身につけること」を目指して、特に中～高齢者を対象とした「健康増進」に繋がっていく内容の「レクリエーション活動の普及と推進」に軸足を置いた教育を展開する。	○	△	○	◎	◎	△	○	○

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
学科共通科目	◇ 地域マネジメント学	2	3	秋	○	少子高齢化社会を迎える現在では、病院のみならず地域づくりにおいても専門職の必要性が増加している。本科目では、実際の国内外での活動内容や事例を交えながら、地域での支援、他職種との連携による課題解決、地域づくりなど、専門職による地域マネジメントの方法と実際について講義する。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎
	◇ 生活環境学	1	3	秋	○	本講義の春半において「福祉住環境コーディネーター2級の取得」に主軸を置いた講義を展開する。また、春半の講義では「医療／介護／福祉の制度・法律への理解」が深まるように配慮しながら講義を展開していく。秋半は生活環境に関する基本的概念を踏まえると共に、福祉用具の導入や住宅改修を春提とした評価や具体的なアプローチ方法について指導する。また、住宅改修に関する実践的な思考の獲得を目指して製図方法についても教授し、レポート(製図)作成を実施する。本講義は「地域」や「在宅」に軸足を置いた講義内容であるため、受講学生には「地(知)の拠点事業」における「地域在住高齢者を対象とした健康教室の参加者」への関わりを持っていただくことも視野に入れた講義展開も実践する。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎
	生活支援工学	2	3	秋		地域生活支援の実践の場で必要となる福祉用具を紹介し、医療・福祉現場だけに留まらず地域で様々な弱者の困難を解決できるツールや技法を紹介する。単なる聴講のみではなく、パソコンやスマホなどの様々なデバイスのアクセシビリティを理解し、その問題点などをグループでディスカッションも行う。また自身の考えをまとめ、それぞれのスタイルで発表を行い、相互理解できる環境を作成する。	○	△		○	◎	◎		
	◇ ヘルスプロモーション	1	3	春	○	健康増進、転倒やフレイルの予防といったヘルスプロモーションを実践する上で必要な、身体機能、精神機能、心理社会的な特性、そして社会的動向や制度を総合的に理解し、専門職として適切な指導や支援介入を実践できることを教授目的とする。	○	△		○	◎	◎		
	◇ 人間生活学	1	1	春	○	本科目では、生活(仕事、遊び、レジャー、教育、日常生活活動、手段的日常生活活動、休息、睡眠、社会参加)の仕方を工夫することで、人々が豊かで健康や幸福に過ごせるために必要な知識を学ぶ。またその効果を理解し、日常生活に取り入れ実際に体験しながら学習する。	◎	△	○	◎	○	○	◎	◎
	園芸論	2	1	春		本科目では、園芸活動が有する文化的・社会的・人類学的などの学際性豊かな特徴に加え、幼児教育から学童、成人、高齢者が行う園芸活動と身体活動(運動量)、ストレス、健康の効果に関して教授する。	◎	△	○	△	○	○	○	○
	園芸療法論	2	1	秋		日常的な生活の中では、人々が不安や緊張を経験する。園芸活動を通じて、人々の不安や緊張の緩和を促進し、豊かな人間関係の構築と生活の質の向上を目指す支援方法を学修する。また、医療・保健・福祉の臨床において、何らかの障害を持つ人々の機能回復や症状の改善や援助方法を理解し園芸療法の役割を理解する。	◎	△	○	△	○	○	○	○
	ガーデニング	2	1	秋		ガーデニング技術を身につけることにより、園芸活動の実践場面の解説や多面的な視点を学ぶ一助にする。自らが栽培に関わることの意義や有意性を感じ、健康増進の分野での園芸活動を臨床場面で実践する楽しさを理解する。	◎	△	○	○	○	○	○	○
	園芸療法実習	2	2	春		医療・保健・福祉の臨床における実践で活用することができる技法としての園芸療法技術を身につける。屋外、屋内でロールプレイを中心としたアクティブ・ラーニングを行い、対象者の情報収集、ニーズや課題から目標設定、園芸療法プログラム立案、観察方法、特性の捉え方を体験する。	○	△	◎	◎	○	○	◎	○
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	秋		人の成長、発達、老化にはじまり、正常の人体の構造と機能について学んだうえで、主要な疾病について概説する。その他、国際生活機能分類や健康の概念、人口動態、国民の健康づくり対策、産業保健などの概略にも触れる。	◎	△	○	△	△	◎	○	△
	神経・生理心理学Ⅰ	2	1	秋		「心」が存在すると考えられている神経系、その入れ物である頭蓋と脊椎、神経系と密接な関係のある内分泌系について学習する。解剖学用語は医学系の学問を学ぶことができ、また医療系の臨床業務に従事する者の共通言語となる。将来医学系と関連した職種を希望する学生には特に有用な科目である。	◎	○	○	△		○		
	◇ 精神疾患とその治療	2	2	春	○	精神医療に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、精神療法や社会福祉的支援の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要である。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断・検査法や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにする。	◎	○	△	△	○	△		
	神経診断学	2	3	春		神経系が障害された時に見られる症候を理解し、それらの症候から神経系の障害部位を考えるための検査法(神経診断学)を学ぶ。特に神経系の病態生理、神経解剖学に基づいた系統的な神経所見の診察法、補助検査について学ぶ。	△	○	△	△	△	△	△	△
	発達心理学	2	1	春		様々な視点から人間の発達過程について学習する。具体的には、胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期のそれぞれにおける発達の様相や発達課題について学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、その問題に対する心理的援助についても考察する。	◎		○		○		○	○
	◇ 臨床心理学概論	2	2	秋	○	臨床心理学の基本モデルとして、臨床心理学の歴史、臨床心理学における研究、チームアプローチについて解説する。続いて臨床心理学の方法では、心理的アプローチと心理社会的アプローチについて解説し、より適応的な方向へ支援することの実際について示していく。	◎	○	△		○	△		
	障害者・障害児心理学	2	3	春		発達障害をはじめとするさまざまな障害の種類や特性を理解し、心理師として現場において支援する具体的な方法を学ぶ。具体的には、さまざまな障害による制約や特性、個々に対応するためのアセスメント、支援方法等について、障害ごとに理解していく。そして「障害」とは何か、その種類、症状・特性、診断基準、支援方法等の知識を習得する。	◎			○	△		△	◎

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
学科 共通科目	健康・医療心理学	2	1	秋		健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れて行う。	◎		○			○		
	カウンセリング演習Ⅰ	1	2	秋		講義と演習を並行して行い、心理面接の基礎理論を理解した上で、面接技法を体験的に学んでいく。事例検討やロールプレイングを通して、心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理面接技法などを体験的に学ぶ。またグループアプローチの一つである構成的グループエンカウンターも実施する。	◎		○	◎		○	○	△
	カウンセリング演習Ⅱ	1	3	春		心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、心理的支援をおこなっていくための基本的知識やスキルについて、ロールプレイや事例検討を通して修得する。	○			◎			○	
	外書講読	2	4	春		各分野の英語文献を講読し、その内容や論点について理解する。例えば、心理学分野であれば基本的な内容を英語文献を読み理解し、専門用語を学習すること。新たな知識を広げられることなどが到達目標である。	○	○	○				○	
	コミュニティ心理学	2	3	春		コミュニティ心理学は、地域臨床の文脈で実践されてきた経緯がある、またそれを体系化する理論が数多く提示されているが、地域臨床だけでなく様々な実践的事例を概観する。知識を深めていくとともに、集団ロールプレイング等により自ら体験することも取り入れながらコミュニティ心理学の知識と技法を検討・理解し、心理専門家としての資質を高めていく。	◎			◎	◎			△
	◆ 基礎演習Ⅰ	2	1	春	○	基礎演習Ⅰは、1年次春学期の科目である。これから4年間「大学生」として学んでいく上で、4年秋の就職活動も視野に入れながら、有意義な知的生活を送るために必要となる、教養及び技能を紹介していく。	◎	△	◎	◎			◎	
	◆ 基礎演習Ⅱ	2	1	秋	○	自分自身を理解するために、ワークショップやエクササイズを中心とした演習を行う。その秋、さらに自己理解を深め、自己を延ばすためにはどういう考えと行動が必要かについて、受講生同士で話し合う。加えて、学問へのアプローチ方法について、教員から指導する。	◎	△	◎	◎			◎	
	◆ 基礎演習Ⅲ	2	2	春	○	専門分野における総合的な課題探究能力・主体的判断能力の育成を目指して、教養教育と専門教育の有機的連携を考察する。教員から与えられる専門情報に関して、受容から獲得へ、学修から研究へと、理解を深め、専門的知識を演習グループの共通認識へと高めていく。	◎	△	◎	◎			◎	
	◆ 基礎演習Ⅳ	2	2	秋	○	資料や文献を検索し、体験と運動させて、情報の専門的解釈および記録の方法を学修する。学習内容を、グループ研究の形で共同研究発表や討議などを通して演習グループの共有財産に高める。知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連で理解し、将来的自己の専門家としての主体性(モチベーションとアイデンティティ)と活動内容を考察する。	◎	△	◎	◎			◎	
リハビリテーション専門科目	◇ 解剖学Ⅰ	1	1	春	○	主に骨・関節、靱帯、筋肉などの運動器系について講義すると同時に、医療現場で使われる基本的な専門用語についての理解を目指す。今秋リハビリテーション業務において必要となってくる、人体の構造と機能の基礎を理解し、各専門科目を学ぶための基礎能力を身に付けることを目標とする。講義では、座学と並行して、適宜「teamLabBodyアプリ」を用いた視覚的授業を行い、人体の3次元的理解を目指す。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◇ 解剖学Ⅱ	1	1	秋	○	中枢神経系の構造、神経伝導路、脊髄神経系、脳神経系などの解剖学的構造や神経ネットワークについて講義する。また、脳の各部位の働きを理解することで、神経疾患の病態理解が出来る能力の獲得を目指す。講義では、座学と並行して、適宜「teamLabBodyアプリ」を用いた視覚的授業を行い、複雑な神経システムの3次元的理解を目指す。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◇ 解剖学演習Ⅰ	1	2	春	○	主に循環器系・消化器系・呼吸器系について、マクロからミクロまでの構造を理解する。それと同時に、各器官・組織の機能についても講義する。各器官の構造や生理学的な機能を考慮しながら、主要な疾患の病態についても考察出来る能力の獲得を目指す。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◇ 解剖学演習Ⅱ	1	2	秋	○	泌尿器系・内分泌系・感覚器系の各部位の詳細な構造や名称についての基本事項を理解するとともに、生理学的な機能を考慮しながら主要な疾患の病態についても考察する。また、講義の一環として、他大学での人体解剖の見学実習を行い、教科書では学ぶことのできない3次元的な人体の複合理解を目指す。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◇ 生理学Ⅰ	1	1	春	○	医学の学習は人体の形態と構造を学び、その機能と役割を理解することから始まる。形態と構造は、主に解剖学の領域であるが、生理学では、機能と役割の部分 を学修する。本講義では、自律神経、内分泌、免疫、呼吸器、循環器について講義する。	◎	△	○					
	◇ 生理学Ⅱ	1	1	秋	○	統合された生理機能について理解する。栄養・代謝、体温・エネルギー代謝、運動機能、感覚、脳機能、性差、生殖、老化などについて学ぶ。正常な構造と機能を理解しなければ、病気の成り立ちを理解することはできない。リハビリテーションとの関連が深い神経、感覚、脳、筋収縮、運動の調節、運動の生理学、骨の生理学、加齢の生理学について学ぶ。生理学に関連するトピックスを、交えながら講義する。	◎	△	○					
	◇ 生理学演習	1	2	春	○	生理学Ⅰと生理学Ⅱの講義で得た知識のうち、心電図や筋電図の計測、血圧、心拍数、血流量、発汗量、呼吸機能検査、皮膚感覚などについて演習を行い、生体現象を直に感じ、生きた知識とすることを目的とする。この過程で科学的な思考力を養うとともに、演習データのまとめ方、レポートの書き方などを身につける。また被験者になることによって患者様の気持ちを理解できるようになる。	◎	△	○					

授業科目		◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
リハビリテーション専門科目	共通科目	◇ 運動学		1	2	春	○	運動学は理学・作業療法士の基本的な学問であり、また臨床の理学・作業療法士が治療場面で応用する学問である。授業ではその中で主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。	◎	△	○					
		◇ 運動学演習		1	2	秋	○	人間の体の運動のしくみを研究する学問であり、力学と解剖学がその基本となる。これを理解したうえで、実際の人間の正常運動を運動動作分析の手法を用いて解析する。また、身体運動にいて、テーマに沿ってグループ学習を行う。	◎	△	○					
		◇ 人間発達学		1	2	春	○	胎児期から老年期までの各期における運動機能、認知機能、言語機能、情緒・社会性の機能の発達について解説する。各々の時期で重要な事柄について、現代の発達心理学の主要な知見を示しながら、人間の生涯を解説していく。	◎	△	○					
		◇ 病理学		1	2	春	○	病理学総論として、全身の臓器に共通する一般的な原理を講義する。これには細胞の異常、炎症、循環障害、免疫と免疫異常、先天異常、代謝異常、老化、感染症などの項目が挙げられる。	◎	○	△		○	△		
		◇ 内科学Ⅰ		1	2	春	○	広い範囲な医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野であり、内科学を理解することにより医学の基本的概念や考え方を身につける事が出来る。疾患の原因、病態、症状、検査、画像診断、治療を総合的に理解し、身体機能がどのような経過を辿り、治療介入によってどう修飾されるか理解することは、理学療法や作業療法の役割や他のコメディカルとの連携を考える上で重要である。本講義では、呼吸器、消化管、肝・胆・膵、循環器の疾患について論じる。	◎	○	△		○	△		
		◇ 内科学Ⅱ		1	2	秋	○	高齢者では幾つかの内科的疾患を合併していることが多いが、特に代謝異常による動脈硬化の進展、腎機能不全、感染症の併発は、身体機能に多大な影響を与え、理学療法や作業療法による介入が重要となる。本講義では、代謝、内分泌、膠原病・アレルギー、腎・泌尿器、血液、感染症の分野につき、疾患の原因、病態、症状、検査、画像診断、治療を総合的に論じる。	◎	○	△		○	△		
		◇ 整形外科Ⅰ		1	2	秋	○	整形外科疾患の病態を理解し、診断方法を学び、臨床の現場に役立つ力を身につけるものである。病態や治療法を理解する上で重要な基本的・普遍的なポイントをおさえつつ、随時最新の知見を取り入れて講義する。筋肉の外傷・疾患、絞扼性神経障害、神経根の障害、脊髄疾患、小児整形外科、切断、部位から診る運動器疾患について講義する。	◎	○	△		○	△		
		◇ 整形外科Ⅱ		1	3	春	○	整形外科疾患の病態を理解し、診断方法を学び、臨床の現場に役立つ力を身につけるものである。実際の症例を多くの画像を用いて紹介し、臨床の現場で必要となる科学的根拠に基づいた判断力・思考力も養えるようにする。骨疾患、変形性関節症、関節リウマチ、軟骨・関節の疾患、靱帯の外傷・疾患、腱の外傷・疾患について講義する。	◎	○	△		○	△		
		◇ リハビリテーション概論		1	1	春	○	リハビリテーションの理念と社会的、地域的リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。公的介護保険制度、自立支援、就労支援、地域包括ケアシステムについても、社会的背景を踏まえ講義を行う。リハビリテーションを単なる秋療法と位置づけるのではなく、人間らしく生きるための技術、学問として考えていく。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性について講義する。	◎	△	○		○	○		○
		◇ リハビリテーション医学		1	1	秋	○	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーション医学の基本的原則を教授する。臨床医学の各科が個々の臓器や器官を対象とするのに対し、リハビリテーション医学は人間の行動能力全体を対象とする際だった特徴がある。障害の実体を科学的に捉え、合理的な解決を決めるための基礎を学ぶ。	◎	△	○		○	○		○
		◇ リハビリテーションマネジメントⅠ		1	3	春	○	理学・作業療法士として医療、福祉関係機関で勤務するためには医療保険制度、介護保険制度をはじめ障害者、高齢者に関わる法制度を十分に理解しておかなければならない。また、対象者の個人情報を保護し、プライバシーを守るためには個人情報保護法の理解だけでなく、専門職として高い倫理観が要求される。本講義では理学・作業療法士として必要な法制度の理解とともに、臨床実習春に必要な理学・作業療法士としての倫理観の育成を目的に講義、グループワークを行っていく。また、経営的な視点から教育論に関しても講義を行う。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
		◇ リハビリテーションマネジメントⅡ		1	3	秋	○	理学・作業療法は医師、看護師、事務系職員などの協力関係があっはじめて良質なサービスが提供できる。多職種の人間が協同して活動するには、活動を円滑に行うための知識とチームを組める技術が必要となる。病院リハビリテーション部門の組織、管理（人事、総務、労務）、業務（処方関連、診療、記録）、職員教育と生涯学習などの理論と実際について、演習を中心に教授する。理学・作業療法の発展的ビジョン、管理者としての思考、臨床業務におけるリーダーシップのあり方も身につける。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
		◇ リハビリテーション学研究法		1	2	秋	○	リハビリテーション学研究に対する基礎的な知識として、研究デザインの大切さ、理学療法および作業療法領域で用いられることの多い検査測定方法の選択の仕方、統計手法について教科書、講義を通じて身につける。	◎	◎	◎	◎		◎	○	△
		◇ 小児リハビリテーション学		1	3	秋	○	小児における各疾患・障害特性をより深く理解し、疾病の症状、合併症、禁忌事項を学び、対象疾患それぞれ対応する理学・作業療法評価を適切に選び、評価と治療計画を立てることができることを目的とする。疾患は、脳性麻痺、先天性奇形、二分脊椎、進行性筋ジストロフィー、自閉スペクトラム、学習障害などを取り上げる。	◎	○	○	○	△	◎	○	◎
		◇ 義肢装具学		1	2	秋	○	義肢装具の構造や役割を理解することを目指す。これまで学習してきた機能解剖学や運動学の知識に関連付けながら義肢装具の意義・目的についての知識、種類・部品と適応に関する知識を身につける。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修							単位数		配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
リハビリテーション専門科目	共通科目	◇ 中山間地域健康増進演習	1	1	秋	○						吉備国際大学の所在地である岡山県高梁市は「中山間地域」という地域属性であり、高齢化率の著しい増加とともに「通いの場の少なさ」に伴う地域在住高齢者の方々における「ICFでいうところの参加」の機会の減少が懸念されている。本講義では、高梁市（介護保険課）が主幹となって運営されている地域包括ケアシステムに関連しているプロジェクト（特に「高梁市元気なからだづくり隊」事業）を題材として学びを深める。また、地域対象者の筋力評価方法（特にMMTの段階2～段階5の概念）と、筋力の段階に応じたトレーニング・プログラム検討に資する知識と知恵を教授する。	◎	△	○	△	◎	○	○	◎
		◇ リハビリテーション臨床技能演習	1	3	秋	○						学内における知識・技術に対する学習内容ならびに3年次の臨床評価実習の経験を踏まえて、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の過程を系統的に学ぶ。さらに、問題点の推測、必要な評価・問題点の再検討、目標・治療計画の作成を通して、問題点を解決するための基本的な考え方を身につける。なお、リハビリテーション評価を系統的に学ぶうえで、臨床技能評価などにより到達度を確認する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
		◇ 臨床見学実習	1	1	春	○						身体障害、高齢期、地域の各分野における臨床・臨床場面、およびそこの理学・作業療法士の役割について、見学を通して包括的に学習する。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
		◇ 臨床評価実習	4	3	春	○						3年春学期までに学習した学内での知識と技術を統合し、臨床場面で応用することを目的とする。この科目の主たる内容は、臨床実習指導者と共に対象者に応じた検査・測定を実施し、さらに障害を抱えた対象者の全般を見通し、問題点の抽出・治療プログラム立案・ゴール設定を行う。また、臨床現場での記録、報告等を体験し、臨床家としての能力の獲得を目指す。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
		◇ 地域リハビリテーション実習	1	3	秋	○						地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学・作業療法の知識・技術がどのように活用できるかを、地域参加型実習を通して学修する。訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設で実習する。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
		◇ 総合臨床実習	16	4	春	○						臨床実習指導者の指導のもとで対象者の評価を行い、これに基づいた治療計画を立案・実施する。そして、これらの一連の過程の実践を行うことにより、一貫とした理学・作業療法の提供が可能になることを目指す。さらに、社会人および専門職としての責任ある態度や行動を養う。臨床実習の春秋で学内評価を行い、教育効果を判定する。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	理学療法専門科目	◇ 理学療法学	1	1	春	○						理学療法の歴史や概念、理学療法士の役割や方法、医療人として必要な資質や情報管理、理学療法士を取り巻く法律関係、理学療法士の業務と国家行政や施策の関係を学習し理解する。将来の理学療法士としてふさわしい素養や知識、コミュニケーション連携スキルを身につけるため、グループ討論も取り入れながら授業を行う。	◎	△	○				△	
		◇ 理学療法総合演習	2	4	秋	○						理学療法士国家試験の対策につながる科目であり、徹底的な予習、復習が望まれる。効率よく学力を身につけられるようグループ学習を主体とした授業を行う。国家試験対策模擬試験を複数回行い、弱点を確認するとともに時間配分や形式に慣れ本番の国家試験にそなえる。	◎	△	◎					
		◇ 評価学概論	2	2	春	○						臨床現場において、もしも理学療法士による最初の評価が誤っていれば、その評価結果に基づいて立案される治療プログラムも自動的に誤った理学療法介入プログラムに陥ってしまうこととなる。よって本講義で身につけることとなる評価技術の基礎は、きわめて重要である。本講義では評価実技を中心として「正しい評価のための視点・思考」を学びながら到達目標4項目の実技を実施できるようになることを目指す。	◎	△	◎	○		○	△	△
		◇ 評価学実習	1	2	秋	○						身体表面における代表的なランドマークの触診を円滑に実施できるように実習する。形態測定（四肢長・周径）を円滑に実施できるように実習する。徒手筋力検査（MMT）を円滑に実施できるように実習する。自動および他動での関節可動域（ROM）の測定を円滑に実施できるように実習する。第1回の総論で評価の考え方をおさえ検査学に進める。検査学では代表的検査を取り上げ、単なる方法（まね事）の修得ではなく、理論に裏打ちされた確かな技術修得を目指す。	◎	△	○	◎		○	△	△
		◇ 運動系理学療法学演習	2	3	春	○						運動器疾患の特徴としての筋、骨格、関節、神経障害および動作、歩行能力障害などの理学療法的評価の方法について学習する。また、画像診断、生化学検査、医学的所見と理学療法的評価をあわせた病態の解釈に関して学習する。講義ではグループワークや実技演習を取り入れ、評価時の具体的なオリエンテーションの方法から解釈までを行う。検査結果から解釈するボトムアップ的な解釈のみでなく、動作から障害像を把握していくトップダウン的な考え方も学習し、模擬症例に対する評価項目の立案、実施、結果の解釈までを行う。	◎	○	○	△		○	○	△
		◇ 循環呼吸系理学療法学演習	1	2	秋	○						循環・呼吸器疾患の基礎医学的知識（解剖学、生理学、病理学、内科学など）を理解する。その上で循環・呼吸理学療法の基本原則とプロセスを学んでいく。特に理学療法評価に必要な様々な心臓・肺疾患のX線・CT画像の特徴を理解する。	◎	○	○	○			○	△
		◇ 神経系理学療法学演習	1	3	春	○						中枢神経系障害の仕組みについて脳画像の読み方を学び、中枢性運動麻痺の様態をはじめ、感覚障害、各種反射障害、歩行・セルフケア動作障害などについて学習する。また、中枢神経系疾患の理学療法評価を演習して問題点の抽出までを理解し、評価に基づく理学療法推論を習得する。グループワーク演習を取り入れ、歩行異常性の観察的分析から機能形態障害と動作制限の間の障害構造を推論することを習得する。	◎	○	○			△		
		◇ 理学療法臨床評価演習	1	3	春	○						理学療法に関する知識や技術を礎に、臨床現場において必要な情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出までの一連の過程を学ぶ。理学療法評価を系統的に学ぶうえで、臨床技能評価などにより到達度を確認する。問診、カルテ等からの情報収集、動作観察、検査測定、臨床推論という一連の評価の流れを理解し、系統的に理学療法評価を学修する。臨床評価実習を控えた学生として修得しておくべき理学療法評価に関する知識と技術を洗練化するとともに、得られた評価結果（数値）の意義や解釈の仕方について可能な限り臨床に軸足を置いた思考を修得する。	○		○	◎		◎	△	

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		◇ 義肢装具学実習	1	3	春	○	義肢装具の実物を用いて構造と機能を理解し、装具を実際に作製することで適合判定までを体験して身につける。義足の異常歩行についてはモデルを用いて現象を体感することができる。現場で適応された動画を通じて能力障害への適応を理解する。模擬患者を想定して義肢装具を適応さすことで共感的態度を身につけ、自ら学ぶ習慣を培い体で覚えることを育み専門家の素養を身につけることができる。			△	△	◎	○	△	
リハビリテーション専門科目	理学療法専門科目	◇ 運動療法学総論	1	2	春	○	運動療法を行う場合の基礎知識としての歴史、結合組織、関節、骨格筋、神経系、組織の修復過程、運動学について学習する。次に運動療法の理論と実際として、運動療法機器、関節可動域運動、筋力維持増強運動、持久力増強運動、全身調整運動・機能回復運動およびリラクゼーション運動、協調性運動障害に対する運動療法、神経筋再教育・神経生理学的アプローチ、筋・筋肉痛に対するストレッチング・リリース法について学習する。	◎	△	○				△	
		◇ 物理療法学	1	2	秋	○	物理療法の概念を学ぶ。温熱刺激や電気刺激、機械的刺激に対する生体の反応を理解し、物理療法との関連を学ぶ。物理療法は、その適応を誤ると症状の改善に効果が無いばかりでなく悪化を招く。各療法について定義、目的、効果と適応、リスク管理を中心に教授する。	◎	△	○					
		◇ 物理療法学実習	1	3	春	○	物理療法機器の基本的な使用方法、適用肢位を学び、学生同士でペアを組み適用者と患者を演じて実際に使用する。その際、リスク管理に注意して実習を行う。 以上により物理療法の安全かつ効果的な適用技術を習得する。	◎	△	○					
		◇ 神経系理学療法評価学	1	2	秋	○	脊椎・脊髄の主要な解剖と機能、神経組織との関係を把握し、乳幼児から超高齢者の脊髄疾患までを理解する。また脊髄損傷の病態・障害像を把握して、理学量評価方法について講義する。さらに、脊髄損傷の運動療法や日常生活活動支援について基礎的な実践方法を学ぶ。	◎		△			○		
		◇ 神経系理学療法治療学実習	1	3	秋	○	脳卒中片麻痺に対して脳の可塑性の原理に基づく運動療法について学習するとともに、評価学で学んだ推論を踏まえ、有限の評価情報から理学療法プログラムの立案化を図るトレーニングを行う。また、グループワーク演習も取り入れ、チーム医療における協調性や責任感や報告力を養う。以上は、各疾患や症例固有の理学療法介入モデルを模索することを通じて、知識を実際場面で用いる技術と高度な介入態度を学ぶと共に、臨床家の課題解決に近づくことをめざす。	△	○	○	○		◎	○	△
		◇ 循環呼吸系理学療法治療学実習	1	3	春	○	循環呼吸系疾患の評価と治療技術について学ぶ。特に呼吸理学療法に関しては、リラクゼーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域訓練、排痰法、運動療法と詳しく学ぶ。特に喀痰吸引等実習として、「たんの吸引等」実施に必要な知識・スキルを身につける。	◎	○	○	○			○	△
		◇ 運動系理学療法治療学実習	1	3	秋	○	「運動系理学療法評価学」の知識を基礎として、代表的な運動器疾患に関しての治療プログラム立案、実施、リスク管理方法を学習する。講義の中では行動科学、運動学習理論を踏まえた対象者への説明方法、治療者として良好な態度についても実践できるようにしていく。また、実際の対象者の画像、生化学検査結果、映像、理学療法評価結果を用いて臨床的推論、対象者の特性を考慮した介入の方法についても学習する。	◎	○	○	△		○	○	△
		◇ 生活技術学	1	2	秋	○	春半はADLの定義と概念を踏まえた上で、構成する個々の活動の評価や問題点の抽出方法、自立に向けた介入方法の基礎を教授する。同時に、地域生活の自立を指す「生活関連動作」を取り上げ、社会参加の促進や障害予防の視座に立った支援について理解を深める。秋半では、疾患別の自立支援として代表的疾患の「脳血管障害」「脊髄損傷」について取り上げ理解を深める。講義では「グループワーク(GW)」を導入する等、受け身ではなく能動的学びを目指す。	◎	△	△	○		○		
		◇ 生活技術学実習	1	3	春	○	感染予防の観点より、授業構成としてまずはADLの支援介入技術に関する理解を深め、直接接触を春提とする介助技術習得は、秋半の授業回に集中講義で実施する。初回は、疾患別自立支援法として骨関節疾患を取り上げ教授する。次いで医療面接と事例検討をとおしADL障害の構造と捉え方について理解を深める。それ以降、6回にわたり介助技術の運動力学的理解、基本動作やセルフケアに関する各種介助技術の概要を、デモンストレーションを交え教授する。そして集中講義による実技をとおして専門的技術の修得を図る。	◎	△	△	○		○	△	△
		◇ 難病理学療法	1	3	春	○	神経筋疾患(難病)に対する理学療法を実施するにあたり、実施の目的が分かり、評価、治療を長期的な見通しを持って組み立てることができる力を修得する。パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群を中心に罹患された者やその家族の心理的、社会的側面に関する理解を深め、リハビリテーション従事者として必要な洞察力、共感力を養い、専門職としての関わりの在り方について講義する。	◎		△			○		
		◇ スポーツ障害	1	3	秋	○	スポーツ動作のバイオメカニクス、およびスポーツ障害の疾患特性として部位別に発生機序、病態・疾病特性について解説する。さらにはスポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを実践できるように実技も取り入れながら講義を進めていく。	◎		△	△			○	○
		◇ 理学療法学研究法演習Ⅰ	1	3	春		論文クリティークを経て研究論文を読む能力を、文献検索とアブストラクトテーブル作成の仕方を学び先行研究のレビューの仕方をそれぞれ身につける。また研究計画の作成やブレテストをとおして、測定と統計処理に関する基本的知識と技術を身につける。生きた学びをとおして自然に研究能力が身につくよう、個別課題やグループ討論を主体とした学修を行う。			◎	○		◎	△	
		◇ 理学療法学研究法演習Ⅱ	1	3	秋		研究計画に基づきデータ収集と整理、統計処理を進めるとともに、先行研究の知見に基づく結果の解釈を行い研究意義の理解を深める。研究成果の発表を課し、スライドと発表抄録の作成、口述と質疑を経験し、プレゼンテーションスキルを修得する。研究資料作成をとおし、研究成果をまとめる能力を身につける。			◎	○		◎	○	